

【プログラム】(解説)

1.ポレロ

フランスの作曲家モーリス・ラヴェル(1875～1937)が1928年に作曲したバレエ音楽。同一のリズムが保持される中で、2つのメロディが重なり繰り返される構成。バレエのみならず、映画やCMなど印象的に使われることが多い曲ですが、このカルテットで聴けることはめずらしいと思います、お楽しみください！

2.小さい秋みつけた～夕焼け小焼け

「小さい秋みつけた」はサトウハチロー作詞中田喜直作曲。中田喜直は童謡や校歌などを多く手がけ、生涯で3000曲近く作曲したと言われています。

「夕焼け小焼け」は1919年に発表された中村雨紅の詞に、草川信が1923年に曲をつけた童謡で、全国の夕方のチャイムでも使用されています。美しく叙情的なメロディと詞で、広く親しまれています。

3.津軽じょんから節

青森県津軽地方の民謡で、津軽三大民謡、および五大民謡の一つに数えられ、独奏や前奏に限らず、唄の伴奏においても基本的に、全て即興で行われる津軽三味線の代表的な曲。

4.タイスの瞑想曲

フランスの作曲家ジュール・マスネ(1842～1912)が作曲した歌劇「タイス」の第2幕第1場と第2場の間に奏される間奏曲。甘美なメロディによって、人気のあるクラシック小品としても有名です。まるで、雲間から光が射し込んでくるかのようなシーンが浮かびます。

5.チャルダッシュ

イタリアの作曲家ヴィットーリオ・モンティが作曲したハンガリーの伝統的舞踊を表現した作品。遅い部分と速い部分を繰り返すのが特徴で、遅い部分は哀愁を持ったメロディをこれでもか！と。速い部分は男女が手をとって、くるくると回る舞踊を表し、どんどんと勢いを増していきます。

6.手事 2、3 楽章

この曲はお正月によく聞く春の海の作曲者、宮城道雄が作曲しました。本来3楽章ある曲ですが、本日はカットバージョンで2楽章から演奏します。暖徐で静かに始まる2楽章、フレーズの中で流れにせきこまれたり穏やかになったりしながら、一音一音で繋がれていくメロディーが静まり、ダイナミックな3楽章へ移ります。古典的で華麗かつ急速なこの楽章はお琴の基礎とされる奏法がたくさん出てきますが、その中でクライマックスに向かって変化していく音楽の流れを是非お楽しみください。

7.情熱大陸

日本のヴァイオリニスト葉加瀬太郎が作曲した、同タイトルのドキュメンタリーTV番組のテーマソング。番組は毎週世界で活躍する日本人に密着取材し、その舞台裏なども見られる事から人気で、放送は900回を超えます。そのため曲も人気が高く、サンバのリズムにどこか日本的なメロディがのって熱く演奏します。